

[研究ノート]

日本の国際流通の国・地域別動向分析

鷺 尾 紀 吉
鷺 尾 和 紀

〈目 次〉	はじめに
1	国際流通をみる3つの視点
2	国・地域別輸出流通の現状と動向
3	国・地域別輸入流通の現状と動向
4	考察
5	結び

はじめに

国際流通は、大きく国際流通機能・活動からみる視点、国際流通の担い手・主体からみる視点、および国際商品流通の実態からみる視点という3つの視点からとらえられるが、本研究ノートは国際商品流通の実態から日本の国際流通をとらえ、その現状や動向、特徴を分析するものである。

国際商品流通の実態を分析するには、国・地域別からとらえていくものと具体的な商品別にとらえていくという2つのアプローチがあるが、本稿では、日本の国・地域別の国際流通の現状を概観し、その動向を分析するものである。

1 国際流通をみる3つの視点

国際流通は「はじめに」で述べたように、大きく3つの視点からとらえることができる。即ち、1つ目は、国際流通機能・流通活動からみる視点、2つ目は、国際流通の担い手・主体からみる視点、3つ目は輸出入商品の国・地域別及び商品別国際流通の実態からみる視点である¹⁾。

国際流通は、国際間にある生産と消費の懸隔を国境を越えて架橋することであり、そのためには、商品の所有権、商品それ自体、資金、情報といった諸要素が移動する必要がある。このような諸要素が国際間で国境を越えて移動することを国際流通フローと呼ぶことができる。国際流通における流通フローは、大きく①商品の所有権の国境を越える国際間の移動である国際商流、②商品それ自体の国境を越える国際間の移動である国際物流、③商品の移動に伴う資金の国境を越える国際間の移動である国際資金流、④商品の移動を円滑に促進するために国境を越える国際間の情報伝達である国際情報流に分けることができる。

このような国際流通フローは自動的に生じるものではなく、それぞれの国際流通フローに対応した国際流通機能とそれを遂行する流通活動がある。国際商流にかかわる所有権機能は国際売買活動が中心となり、国際物流に

かかわる物流機能は国際輸送、保管等を中心とした物流活動となる。また、国際資金流にかかわる資金・危険負担機能は外国為替、国際決済、代金の担保（信用状等）、保険等の活動となり、国際情報流にかかわる情報伝達機能は国際商流、国際物流を円滑に促進したり、あるいは国際情報流それ自体を制御するなどの活動となる。このような国際流通機能とそれを遂行する流通活動から、国際流通をとらえていくのが、第1の視点である。

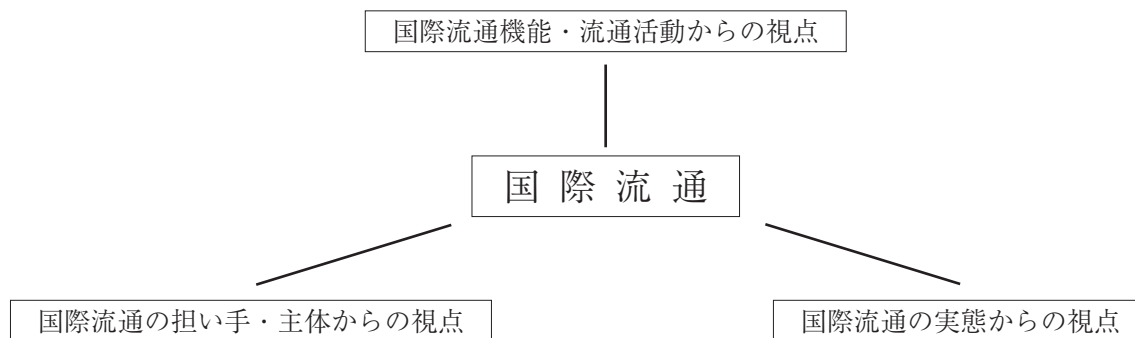
国際流通機能とそれを遂行する流通活動を行うためには、それを実施する担い手・主体がある。例えば、国際売買活動といった所有権機能の遂行には、国際売買を行う当事者、すなわち売主と買主が存在し、国際売買の履行に当たっては、売主は荷主として売買の目的物を買主に引き渡すという物流機能、買主は代金を支払うという資金機能を遂行することになる。従って、この場合は国際流通の担い手・主体は、売主と買主である。

しかし、国際売買は国際取引や国際業務に精通していることが必要であるから、それらの業務を専門的企業（例えば、商社）に委託することが多くみられ、この場合、商社等の専門的企業がその業務の担い手となる。国際物流においても、国際売買の当事者である売主が荷主として自ら国際物流活動を行うことは極めてまれである。今日における国際物流は、国境を越えたドア・ツー・ドア、JITに対応した物流体制の構築、海外ストックオペレーションの展開等高度な物流技術やそれを遂行する豊富な経験とノウハウが求められるから、これら国際物流を一括して国際物流専門企業へ委託するという物流のアウトソーシングが多くみられる。従って、この場合、国際物流の実質的な担い手は、国際物流企業であるといえる。同様に、国際間の資金移動、国際決済等においては銀行が、国際情報の伝達等においては、情報処理会社等が、これらの活動の担い手としての役割を果たしている。このような国際流通の担い手・主体から国際流通をみていくのが、第2の視点である。

さらに、日本と海外との間で、具体的にどのような商品の国際流通が行われているのか、国・地域別及び商品別に、国際流通の現状、動向等といった実態から国際流通をみていくのが、第3の視点である。

1) この他に、国際流通を国際流通の歴史からみる視点、国際流通の理論（原理）からみる視点、国際流通政策からみる視点などからもとらえることができる。従って、本稿で取り上げた国際流通の視点はいくつかある中の1つということである。

図 1 - 1 国際流通をみる 3つの視点



このように、国際流通をみる視点には、大きく3つあると考えられるが、本研究ノートでは、第3の視点、即ち国際流通の実態から国際流通を論じるものである。なお、ここで留意しなければならないことは、国際流通は3つの視点からみることができるといっても、それはそれぞれ独立、分離しているのではなく、相互に関連し合っていることから、これら3つの視点を統合的にとらえる必要があるということである。

2 国・地域別輸出流通の現状と動向

まず、2011年から2015年まで、最近5年間における日本の国・地域別に、輸出流通の現状と動向をみてみる。(後掲の表1参照)

[2011年]

2011年の日本の総輸出額は820,794百万ドルで、これを地域別・商品別に輸出額の動向をみると、対米輸出額は125,673百万ドルで、対前年比6.3%増、全世界の15.3%を占める。商品別にみると、最も多い輸出品は機械機器で97,692百万ドル、全輸出品の77.7%を占める。機械機器の中では、多い順に輸送機器44,192百万ドル(機械機器の45.2%)、一般機械30,064百万ドル(同30.8%)、電気機器16,112百万ドル(同16.5%)となっている。輸送機器の中では、自動車30,932百万ドルが輸送機器の70.0%と最も多い。次に多い輸出品は、化学品11,359百万ドル(全輸出品の9.0%)、その他原料・同製品8,814百万ドル(同7.0%)となっており、これら上位3商品で全輸出額の93.8%を占めるが、特に上位2商品では86.8%を占め、この上位2商品の輸出集中度が高いことがうかがえる。

対EU向け輸出額は95,411百万ドルで、対前年比10.0%増、全世界の11.6%を占める。商品別にみると、最も多い輸出品は機械機器で68,474百万ドル、全輸出品の71.8%を占める。機械機器の中では、多い順に一般機械24,475百万ドル(機械機器の35.7%)、輸送機器21,163百万ドル(同30.9%)、電気機器15,058百万ドル(同22.0%)となっている。次に多い輸出品は化学品11,681百万ドル(全輸出品の12.2%)、その他原料・同製品9,007百万ドル(同9.4%)で、これら上位3商品で全輸出品の93.5%を占める。

対中輸出額は161,467百万ドルで、対前年比8.3%増、全世界の19.7%を占める。商品別にみると、最も多い輸出品は機械機器で、100,076百万ドル、全輸出品の62.0%を占める。機械機器の中では、多い順に一般機械39,168百万ドル(機械機器の39.1%)、電気機器33,284百万ドル(同33.3%)、輸送機器15,927百万ドル(同15.9%)となっている。米国と異なり、輸送機器の割合が低いのが特徴である。次に多い輸出品はその他原料・同製品29,220百万ドル(全輸出品の18.1%)、化学品24,375百万ドル(同15.1%)で、これら上位3商品で、全輸出品の95.2%を占める。

対ASEAN向け輸出額は122,733百万ドルで、対前年比9.1%増、全世界の15.0%を占める。商品別にみると、最も多い輸出品は機械機器で70,145百万ドル、全輸出品の57.2%を占める。機械機器の中では、多い順に一般機械25,937百万ドル(機械機器の37.0%)、電気機器22,916百万ドル(同32.7%)、輸送機器15,945百万ドル(同22.7%)となっている。中国と同様、一般機械の割合が高い。次に多い輸出品は、その他原料・同製品32,237百万ドル(全輸出品の26.3%)、化学品13,506百万ドル(同11.0%)

で、これら上位3商品で全輸出品の94.4%を占める。

対アジア NIEs 向け輸出額は186,546百万ドルで、対前年比2.8%増、全世界の22.7%を占める。商品別にみると、最も多い輸出品は機械機器で、88,625百万ドル、全輸出品の47.5%を占める。機械機器の中では、多い順に電気機器37,403百万ドル（機械機器の42.2%）、一般機械31,123百万ドル（同35.1%）、輸送機器9,074百万ドル（同10.2%）となっており、輸送機器の割合が低いことがうかがえる。次に多い輸出品は、その他原料・同製品46,423百万ドル（全輸出品の24.9%）で、他国・地域に比べ額、割合とも高いことがうかがえる。次に化学品36,678百万ドル（同19.7%）と続く。これら上位3商品で全輸出品の92.1%を占める。

[2012年]

2012年の日本の総輸出額は801,335百万ドルで、これを地域別・商品別に輸出額の動向をみると、対米輸出額は140,624百万ドルで、対前年比11.8%増、全世界の17.5%を占める。最も多い輸出品は、機械機器で110,075百万ドル、全商品の79%と、約8割を占める。機械機器の中では、輸送機器が最も多く、53,447百万ドル（機械機器の48.6%）を占める。次いで、一般機械32,336百万ドル（同29.1%）、電気機器17,958百万ドル（同16.2%）と続く。次に多い輸出品は化学品11,232百万ドル（全商品の10.1%）、その他原料・同製品9,800百万ドル（同7.0%）で、これら上位3商品で全輸出額の93.9%を占めるが、特に上位2商品では87.0%を占め、この2商品への輸出集中度が高いことがうかがえる。

対EU向け輸出額は、81,742百万ドル、対前年比14.3%減、全世界の10.2%を占める。商品別にみると、機械機器が57,781百万ドルで、全商品の70.7%を占める。機械機器の中では、多い順に一般機械20,638百万ドル（機械機器の35.7%）、輸送機械17,087百万ドル（同29.6%）、電気機器13,415百万ドル（同23.2%）となっている。次に多い輸出品は化学品10,296百万ドル、全商品の12.6%、その他原料・同製品6,857百万ドル、同8.4%となっており、これら上位3商品で全体の91.7%を占める。

対中輸出額は、144,686百万ドルで、対前年比10.4%減であるが、全世界の18.1%を占める。商品別にみると、機械機器が86,690百万ドル、全商品の59.1%を占める。機械器具の中では、多い順に電気機器30,804百万ドル（機械機器の35.5%）、一般機械29,924百万ドル（同34.5%）、

輸送機器13,837百万ドル（同16.0%）となる。次に多い輸出品はその他原料・同製品26,258百万ドル（全商品の18.1%）、化学品22,939百万ドル（同15.9%）となっており、これら上記3商品で全体の93.9%を占める。

対ASEAN輸出額は、129,788百万ドルで、対前年比5.7%増、全世界の16.2%を占める。商品別でみると、最も多い輸出品は機械機器で77,829百万ドル、全商品の60.0%を占める。機械機器の中では、多い順に一般機械29,887百万ドル（機械機器の38.4%）、電気機器23,694百万ドル（同30.4%）、輸送機器18,710百万ドル（同24.0%）となっている。次に多い輸出品は、その他原料・同製品30,800百万ドル（全商品の23.7%）、化学品13,044百万ドル（同10.1%）となっており、これら3商品で93.7%を占める。

対アジア NIEs 輸出額は、172,444百万ドル、対前年比7.6%減であるが、全世界の21.5%を占める。商品別にみると、機械機器が81,233百万ドルで、全商品の41.7%を占める。機械機器の中では、電気機器が35,686百万ドル（機械機器の43.9%）と最も多く、一般機械26,251百万ドル（同32.3%）、輸送機器7,778百万ドル（同9.6%）となっており、輸送機器の輸出割合が他国・地域に比べ少ないのが特徴としてあげられる。次に多い輸出品はその他原料・同製品41,245百万ドル（全商品の23.9%）、化学品34,024百万ドル（同19.7%）となっている。ASEAN、中国と同様、その他原料・同製品が第2位の輸出品となっていること、化学品の輸出がASEAN、中国と比べ、多いことが特徴としてあげられる。

[2013年]

2013年の日本の総輸出額は719,205百万ドルで、これを地域別・商品別に輸出額の動向をみてみると、対米輸出額は133,199百万ドルで、対前年比5.3%減、全世界の18.5%を占める。商品別にみると、最も多い輸出品は機械機器で104,800百万ドル、全輸出品の78.7%を占める。機械機器の中では、多い順に輸送機器52,885百万ドル（機械機器の50.5%）、一般機械29,071百万ドル（同27.7%）、電気機器16,029百万ドル（同15.3%）となっている。輸送機器の中では、自動車38,211百万ドル、輸送機器の72.2%と大半を占める。次に多い輸出品は化学品10,872百万ドル（全輸出品の8.2%）、その他原料・同製品8,617百万ドル（同6.5%）で、これら上位3商品で全輸出額の93.3%を占めるが、特に上位2商品では86.8%を占め、こ

の2商品の輸出集中度が高いことがうかがえる。

対EU向け輸出額は72,173百万ドルで、対前年比11.7%減、全世界の10.0%を占める。商品別にみると、最も多い輸出品は機械機器で、50,609百万ドル、全輸出品の70.1%を占める。機械機器の中では、多い順に一般機械18,578百万ドル（機械機器の36.7%）、輸送機器14,744百万ドル（同29.1%）、電気機器11,564百万ドル（同22.8%）となっている。次に多い輸出品は化学品9,261百万ドル（全輸出品の12.8%）、その他原料・同製品5,524百万ドル（同7.7%）で、これら上位3商品で、全輸出額の90.6%を占める。

対中輸出額は129,851百万ドルで、対前年比10.3%減、全世界の18.1%を占める。商品別にみると、最も多い輸出品は機械機器で74,974百万ドル、全輸出額57.7%を占める。機械機器の中では、多い順に電気機器25,659百万ドル（機械機器の34.2%）、一般機械25,191百万ドル（同33.6%）、輸送機器12,727百万ドル（同17.0%）となっている。次に多い輸出品は化学品23,912百万ドル（全輸出額の18.4%）、その他原料・同製品23,063百万ドル（同17.8%）で、これら上位3商品で、全輸出額の93.9%を占める。

対ASEAN向け輸出額は111,671百万ドルで、対前年比14.0%減、全世界の15.5%を占める。商品別にみると、最も多い輸出品は機械機器で62,504百万ドル、全輸出品の56.0%を占める。機械機器の中では、多い順に一般機械23,242百万ドル（機械機器の37.2%）、電気機器19,406百万ドル（同31.0%）、輸送機器15,289百万ドル（同24.5%）となっている。次に多い輸出品は、その他原料・同製品28,960百万ドル（全輸出品の26.0%）、化学品12,008百万ドル（同10.8%）で、これら上位3商品で、全輸出額の92.7%を占める。

対アジアNIEs向け輸出額は157,450百万ドル、対前年比8.7%減、全世界の21.9%を占める。商品別にみると、最も多い輸出品は機械機器で71,251百万ドル、全輸出品の45.2%を占める。機械機器の中では、電気機器が31,805百万ドル（機械機器の44.6%）とトップであり、次に一般機械22,732百万ドル（同31.9%）、輸送機器6,958百万ドル（同9.8%）と続く。次に多い輸出品は、その他原料・同製品38,202百万ドル（全輸出品の24.3%）、化学品30,812百万ドル（同19.6%）で、これら上位3商品で、全輸出額の89.1%を占める。

[2014年]

2014年の日本の総輸出額は694,270百万ドルで、これを地域別・商品別に輸出額の動向をみると、対米輸出額は129,441百万ドルで、対前年度2.8%減、全世界の18.6%を占める。最も多い輸出品は機械機器で101,077百万ドル、全商品の78.1%を占める。機械機器の内訳をみると、第1位は輸送機器49,780百万ドル（機械機器の49.2%）で、次いで一般機械29,260百万ドル（同28.9%）、電気機器15,254百万ドル（同15.1%）と続く。

輸送機器の中では、自動車が34,406百万ドルと最も多く、輸送機器の69.1%、約7割を占める。機械機器の次に多い輸出品は、化学品10,753百万ドル（全商品の10.6%）、その他原料・同製品8,748百万ドル（同6.8%）と続き、これら上位3商品で全輸出額の93.2%を占めるが、特にこの上位2商品では86.4%を占め、この2商品に対米輸出が集中していることがうかがえる。

対EU向け輸出額は72,082百万ドル、対前年比0.13%の微減、全世界の10.4%を占める。商品別にみると、機械機器が51,385百万ドル、全商品の71.3%を占める。機械機器の中では、多い順に、一般機械18,644百万ドル（機械機器の36.3%）、輸送機器15,807百万ドル（同30.8%）、電気機器11,012百万ドル（同21.4%）となっている。次に多い輸出品は化学品9,114百万ドル、全商品の12.6%、その他原料・同製品4,858百万ドル、同6.7%と続き、これら上位3商品で全体の90.7%を占める。

対中輸出額は127,105百万ドル、対前年比2.1%の減、全世界の18.3%を占める。商品別にみると、最も多い輸出品は機械機器74,988百万ドルで、全商品の59.0%を占める。機械機器の中では、多い順に電気機器25,719百万ドル（機械機器の34.3%）、一般機械13,123百万ドル（同32.4%）、輸送機器13,123百万ドル（同17.5%）となっている。次に多い輸出品は化学品22,211百万ドル（全商品の17.5%）、その他原料・同製品21,714百万ドル（同17.1%）となっており、これら上位3商品で、全輸出品の93.6%を占める。

対ASEAN向け輸出額は105,241百万ドル、対前年比5.8%減、全世界の15.2%を占める。商品別にみると、機械機器が最大の輸出品で、58,210百万ドル、全商品の55.3%を占める。機械機器の中では、多い順に一般機械21,752百万ドル（機械機器の37.4%）、電気機器18,979百万ドル（同32.6%）、輸送機器13,070百万ドル（同22.5%）

となっている。次いで、その他原料・同製品27,044百万ドル（全商品の25.7%）、化学品11,990百万ドル（同11.4%）となっている。これら上位3商品で、全商品の92.4%を占めている。中国と同様、その他原料・同製品の輸出割合が高いのが、その特徴の1つであるといえる。

対アジア NIEs 向け輸出額は151,505百万ドル、対前年比3.8%減、全世界の21.8%を占める。商品別にみると、機械機器が68,207百万ドルで、全商品の45.7%を占める。機械機器の中では、多い順に電気機器30,292百万ドル（機械機器の43.8%）、一般機械22,235百万ドル（同32.1%）と続き、対米輸出で最も多くみられた輸送機器は7047百万ドル（同10.2%）と少ないのが特徴である。次に多い輸出品は、その他原料・同製品で36,646百万ドル（全商品の24.2%）、化学品28,687百万ドル（同18.9%）となっており、これら上位3商品で、全商品の88.8%を占める。
[2015年]

2015年の日本の総輸出額は625,068百万ドルで、これを地域別・商品別に輸出額の動向をみると、対米輸出額は125,852百万ドルで、対前年比2.8%減、全世界の20.1%を占める。商品別にみると、最も多い輸出品は機械機器で98,100百万ドル、全輸出品の77.9%を占める。機械機器の中では輸送機器が49,857百万ドル（機械機器の50.8%）と半数を占め（うち自動車は36,204百万ドル、輸送機器の72.6%）、次いで一般機械27,086百万ドル（同27.6%）、電気機器14,670百万ドル（同15.0%）と続く。次に多い輸出品は化学品10,681百万ドル（全商品の8.5%）、その他原料・同製品8,064百万ドル（同6.4%）となっており、これら上位3商品で全輸出額の92.8%を占めるが、特にこの上位2商品では86.5%を占め、この上位2商品の輸出集中度が高いことがうかがえる。

対 EU 向け輸出額は66,004百万ドルで、対前年比8.4%減、全世界の10.6%を占める。商品別にみると、最も多い輸出品は機械機器で、47,355百万ドル、全商品の71.7%を占める。機械機器の中では、多い順に輸送機器16,565百万ドル（機械機器の35.0%）、一般機械15,888百万ドル（同33.6%）、電気機器9,567百万ドル（同20.2%）となっている。次に多い輸出品は化学品8,103百万ドル（全商品の12.3%）、その他原料・同製品4,843百万ドル（同7.3%）となっており、これら上位3商品で全輸出額の91.4%を占める。

対中輸出額は109,226百万ドルで、対前年比14.0%減、

全世界の17.5%を占める。商品別にみると、最も多い輸出品は機械機器64,323百万ドルで、全商品の59.1%を占める。機械機器の中では、多い順に電気機器23,155百万ドル（機械機器の36.0%）、一般機械21,010百万ドル（同32.7%）、輸送機器9,749百万ドル（同15.2%）となっており、輸送機器の割合が相対的に低い。次に多い輸出品は、化学品18,832百万ドル（全商品の17.2%）、その他原料・同製品17,984百万ドル（同16.5%）となっており、これら上位3商品で、全輸出額の92.8%を占める。

対 ASEAN 向け輸出額は95,052百万ドルで、対前年比9.7%減、全世界の15.2%を占める。商品別にみると、最も多い輸出品は機械機器52,831百万ドルで、全商品の55.6%を占める。機械機器の中では、多い順に一般機械19,282百万ドル（機械機器の36.5%）、電気機器16,848百万ドル（同31.9%）、輸送機器12,760百万ドル（24.2%）となっている。一般機械の割合が米国、EU に比べて相対的に高い。次に多い輸出品は、その他原料・同製品23,532百万ドル（全商品の24.8%）、化学品10,620百万ドル（同11.2%）となっており、これら上位3商品で全輸出額の91.5%を占める。

対アジア NIEs 向け輸出額は135,894百万ドルで、対前年比10.3%減、全世界の21.7%を占める。商品別にみると、最も多い輸出品は機械機器65,529百万ドルで、全商品の48.2%を占める。機械機器の中では、多い順に電気機器28,494百万ドル（機械機器の43.5%）、一般機械20,529百万ドル（同31.4%）、輸送機器8,233百万ドル（同12.6%）となっている。輸送機器の割合が、特に米国と比べかなり低いことがうかがえる。次に多い輸出品は、その他原料・同製品29,039百万ドル（全商品の21.4%）、化学品24,333百万ドル（同17.9%）となっており、これら上位3商品で全輸出額の87.5%を占める。

3 国・地域別輸入流通の現状と動向

次に、2011年から2015年まで、最近5年間における日本の国・地域別に、輸入流通の現状と動向をみてみる。（後掲の表2参照）

[2011年]

2011年の日本の総輸入額は853,070百万ドルで、これを地域別・商品別に輸入動向をみると、対米輸入額は74,231百万ドルで、対前年比10.5%増、全世界の8.7%を

占める。商品別にみると、機械機器が最も多く、28,013百万ドル、全輸入額の37.8%を占める。機械機器の中では、多い順に、一般機械8,608百万ドル（機械機器の30.7%）、電気機器7,713百万ドル（同27.5%）、精密機器7,682百万ドル（同27.4%）、輸送機器4,011百万ドル（同14.3%）となっている。次に多い輸入品は食料品17,097百万ドル（全輸入額の23.0%）、化学品14,384百万ドル（同19.4%）で、これら上位3商品で80.1%を占める。

対EU27輸入額は80,287百万ドルで、対前年比21.3%増、全世界の9.4%を占める。商品別にみると、最も多い輸入品は機械機器で、28,916百万ドル、全輸入額の36.0%を占める。機械機器の中では、多い順に、輸送機器9,817百万ドル（機械機器の34.0%）、一般機械8,461百万ドル（同29.3%）、精密機器6,318百万ドル（同21.8%）、電気機器4,320百万ドル（同14.9%）となっている。次に多い輸入品は化学品26,410百万ドル（輸入品の32.9%（うち化学工業品24,353百万ドルが92.2%、さらにその中で医薬品・医薬用品は11,187百万ドルで、化学工業品の45.9%を占める））、その他原料・同製品12,401百万ドル（同15.4%）と続く。これら上位3商品で全輸入額の84.4%を占める。

対中国輸入額は183,487百万ドルで、対前年比20.1%増、全世界の21.5%を占める。商品別にみると、最も多い輸入品は機械機器83,980百万ドルで、全輸入額の45.8%を占める。機械機器の中では、多い順に、電気機器44,042百万ドル（機械機器の52.4%）、一般機械30,736百万ドル（同36.6%）、精密機器5,641百万ドル（同6.7%）、輸送機器3,562百万ドル（同4.2%）となっている。次に多い輸入品はその他原料・同製品54,967百万ドルで、全輸入額の30.0%、中でも繊維・同製品は30,660百万ドルで、その他原料・同製品の55.8%を占める。次には、化学品17,667百万ドル（全輸入額の9.6%）と続き、これら上位3商品で全輸入額の85.4%を占める。

対ASEAN輸入額は124,607百万ドルで、対前年比23.8%増、全世界の14.6%を占める。商品別にみると、その他原料・同製品が最も多く、62,613百万ドル、全輸入額の50.2%を占める。その中では、鉱物性燃料が41,705百万ドルで、その他原料・同製品の66.6%と3分の2を占める。次に多い輸入品は機械機器で30,694百万ドル、全輸入額の24.6%、その中では電気機器が17,372百万ドルで機械機器の56.6%と半数以上を占める。その次には化学品13,006百万ドル（全輸入品の10.4%）と続く。こ

れら上位3商品で全輸入額の85.3%を占める。

対アジアNIEs輸入額は73,057百万ドルで、対前年比19.4%増、全世界の8.6%を占める。商品別にみると、機械機器が最も多く、29,489百万ドル、全輸入品の40.4%、その中では電気機器が19,190百万ドルで、機械機器の65.1%と約3分の2を占める。次に多い輸入品はその他原料・同製品23,747百万ドル（全輸入品の32.5%）、化学品9,815百万ドル（13.4%）と続く。これら上位3商品で全輸入額の86.3%を占める。

[2012年]

2012年の日本の総輸入額は888,584百万ドルで、これを地域別・商品別にみると、対米輸入額は76,460百万ドルで、対前年比3.0%増、全世界の8.6%を占める。商品別にみると、最も多い輸入品は機械機器30,980百万ドルで、全輸入額の40.5%を占める。機械機器の中では、多い順に、一般機器8,197百万ドル（機械機器の26.5%）、精密機器7,983百万ドル（同25.8%）、電気機器7,475百万ドル（同24.1%）、輸送機器7,324百万ドル（同23.6%）で、それぞれの割合に大きな差異はあまりない。次に多い輸入品は食料品16,044百万ドル（全輸入額の21.1%）、化学品13,964百万ドル（同18.3%）となっている。これら上位3商品で全輸入額の79.8%を占める。

対EU輸入額は83,520百万ドルで、対前年比4.0%増、全世界の9.4%を占める。商品別にみると、最も多い輸入品は機械機器31,249百万ドル、全輸入品の37.4%で、機械機器の中では、多い順に、輸送機器11,996百万ドル（機械機器の38.4%）、一般機械8,058百万ドル（同25.8%）、精密機器6,853百万ドル（同21.9%）、電気機器4,342百万ドル（同13.9%）となっている。次に多い輸入品は化学品26,453百万ドルで、全輸入品の31.7%を占める。うち化学工業品が24,374百万ドルで、化学品の92.1%、その中で医薬品・医薬用品は12,450百万ドル、化学工業品の51.1%と半数を占める。次いで、その他原料・同製品12,352百万ドル（全輸入額の14.8%）と続き、これら上位3商品で全輸入額の83.9%を占める。

対中国輸入額は189,019百万ドルで、対前年比3.0%増、全世界の21.3%を占める。商品別にみると、最も多い輸入品は機械機器90,206百万ドルで、全輸入額の47.7%を占める。機械機器の中では、多い順に、電気機器47,444百万ドル（機械機器の52.6%）、一般機械32,297百万ドル（同35.8%）、精密機器6,471百万ドル（同7.2%）、輸送機

器3.994百万ドル（同4.4%）となっている。次に多い輸入品は、その他原料・同製品で53.491百万ドル、全輸入額28.3%を占める。その中で繊維・同製品が30.459百万ドルで、その他原料・同製品の56.9%と半数を占める。次いで化学品15.001百万ドル（全輸入品の7.9%）と続き、これら上位3商品で全輸入額の84.0%を占める。

対ASEAN輸入額は129.603百万ドルで、対前年比4.0%増、全世界の14.6%を占める。商品別にみると、その他原料・同製品が最も多く、66.727百万ドル、全輸入額の51.5%を占める。その中では鉱物性燃料が46.872百万ドルで、その他原料・同製品の70.2%を占める。次に多い輸入品は機械機器31.299百万ドル（全輸入額の24.1%）、化学品12.407百万ドル（同9.6%）と続き、これら上位3商品で全輸入額の85.2%を占める。

対NIEs輸入額は75.124百万ドルで、対前年比2.8%増、全世界の8.5%を占める。商品別にみると、機械機器が30.392百万ドルで、全輸入額の40.5%を占める。その中では電気機器が20.176百万ドルと、機械機器の66.4%と約3分の2の高い割合を占める。次に多い輸入品は、その他原料・同製品で23.785百万ドル、全輸入額の31.7%、その中で鉱物性燃料が10.329百万ドル、その他原料・同製品の43.4%を占める。次に化学品10.094百万ドル（全輸入額の13.4%）と続く。これら上位3商品で、全輸入額の85.6%を占める。

[2013年]

2013年の日本の総輸入額は839.889百万ドルで、これを地域別・商品別に輸入動向をみると、対米輸入額は70.322百万ドルで、対前年比8.0%、全世界の8.4%を占める。輸入品の中で最も多いのは、機械機器で29.078百万ドル、全輸入額の34.7%を占める。機械機器の中では、多い順に、一般機械8.493百万ドル（機械機器の29.2%）、精密機器7.594百万ドル（同26.1%）、輸送機器6.551百万ドル（同22.5%）、電気機器6.440百万ドル（同22.1%）となっている。次に多い輸入品は食料品13.492百万ドルで、全輸入額の19.2%、化学品12.298百万ドル（17.5%）と続く。これら上位3商品で全輸入額の78.0%を占める。

対EU輸入額は78.995百万ドルで、対前年比5.5%減、全世界の9.4%を占める。商品別にみると、最も多い輸入品は機械機器30.487百万ドル、全輸入額の38.6%で、機械機器の中では、多い順に、輸送機器12.127百万ドル（機械機器39.9%）、一般機械7.882百万ドル（同25.9%）、精

密機器6.180百万ドル（同20.3%）、電気機器4.252百万ドル（同13.9%）となっている。次に多い輸入品は化学品で、全輸入額の29.9%を占める。うち化学工業品が21.711百万ドルで、化学品の92.0%、さらにその中で医薬品・医薬用品が11.877百万ドルで、化学工業品の54.7%と半数以上を占める。次いで、その他原料・同製品11.943百万ドル（全輸入額の15.2%）と続く。これら上位商品で全輸入額の83.6%を占める。

対中国輸入額は182.192百万ドルで、対前年比3.6%減、全世界の21.7%を占める。商品別にみると、機械機器が最も多く、多い順に、電気機器48.578百万ドル（機械機器の54.1%）、一般機械31.437百万ドル（同35.0%）、精密機器5.672百万ドル（同6.3%）、輸送機器4.182百万ドル（同4.7%）となっている。次に多い輸入品は、その他原料・同製品49.998百万ドルで、全輸入額の27.4%、その中では繊維・同製品が29.242百万ドルで、その他原料・同製品の58.5%と半数以上を占める。次いで、化学品13.810百万ドル（全輸入額の7.6%）と続き、これら上位3商品で全輸入額の84.3%を占める。

対ASEAN輸入額は118.644百万ドルで、対前年比8.5%減、全世界の14.1%を占める。商品別にみると、その他原料・同製品が最も多く、60.074百万ドルで、全輸入額の50.6%を占める。その中では、鉱物性燃料が39.858百万ドルで、その他原料・同製品の66.3%と約3分の2を占める。次に多い輸入品は機械機器29.812百万ドル、全輸入品の25.1%で、中でも電気機器が16.543百万ドルで、機械機器の55.5%と半数を占める。次いで、化学品11.219百万ドル（全輸入額の9.5%）と続き、これら上位3商品で全輸入品額の85.2%を占める。

対アジアNIEs輸入額は69.147百万ドルで、対前年比8.0%減、全世界の8.2%を占める。商品別にみると、機械機器が最も多く、28.984百万ドル、全輸入額の41.9%、なかでも電気機器が19.683百万ドルで、機械機器の67.3%と高い割合を占める。次に多い輸入品は、その他原料・同製品20.997百万ドル（全輸入額の30.4%、うち鉱物性燃料9.101百万ドルが43.3%を占める）、化学品9.166百万ドル（全輸入品の13.3%）と続く。これら上位3商品で全輸入額の85.5%を占める。

[2014年]

2014年の日本の総輸出額は817,103百万ドルで、これを地域別・商品別に輸入額の動向をみると、対米輸入額は

71,751百万ドルで、対前年比2.0%増、全世界の8.8%を占める。商品別にみると、機械機器が最も多く、29,577百万ドル、全輸入品の41.2%を占める。機械機器の中では、多い順に、一般機械8,913百万ドル（機械機器の30.1%）、精密機械7,544百万ドル（同25.5%）、電気機器6,769百万ドル（同22.9%）、輸送機器6,351百万ドル（同21.5%）となっている。次に多い輸入品は食料品14,436百万ドル（全輸入品の20.1%）、化学品12,443百万ドル（同17.3%）で、これら上位3商品で78.7%を占める。

対EU輸入額は77,749百万ドルで、対前年比1.6%減、全世界の9.5%を占める。商品別にみると、最も多い輸入品は機械機器で31,875百万ドル、全輸入品の41.0%を占める。機械機器の中では、多い順に輸送機器12,246百万ドル（機械機器の38.4%）、一般機械9,013百万ドル（同28.3%）、精密機器6,309百万ドル（同19.8%）、電気機器4,307百万ドル（同15.3%）となっている。次に多い輸入品は化学品21,561百万ドルで全輸入品の27.8%（うち化学工業品19,658百万ドルは91.2%、さらにその中で医薬品・医薬用品10,592百万ドルは化学品の49.1%）を占める。その次にはその他原料・同製品12,070百万ドル（同15.5%）と続き、これら上位3商品で全輸入額の84.3%を占める。

対中国輸入額は182,071百万ドルで、対前年比0.1%減、全世界の22.3%を占める。商品別にみると、機械機器が最も多く92,533百万ドルで、全輸入品の50.8%を占める。機械機器の中では、多い順に電気機器50,524百万ドル（機械機器の27.8%）、一般機械31,903百万ドル（同34.5%）、精密機器5,641百万ドル（同6.1%）、輸送機器4,465百万ドル（同4.8%）となっている。次に多い輸入品は、その他原料・同製品47,608百万ドルで、全輸入品の26.1%を占め、なかでも繊維・同製品26,121百万ドルは全輸入品の14.3%（その他原料・同製品の54.9%）を占める。続いて多い輸入品は雑製品15,494百万ドル（全輸入品の8.5%）で、これら上位3商品で全輸入額の85.5%を占める。

対ASEAN輸入額は116,499百万ドルで、対前年比1.8%減、全世界の14.3%を占める。商品別にみると、その他原料・同製品が最も多く、57,020百万ドル、全輸入品の48.9%を占める。その他原料・同製品の中では鉱物性燃料が35,218百万ドルで、61.8%（全輸入品の30.2%）を占める。次に多い輸入品は機械機器31,136百万ドル（全輸入品の26.8%）で、その中で電気機器が54.4%を占める。

その次には、化学品10,943百万ドル（全輸入品の9.4%）と続く。これら上位3商品で全輸入額の85.1%を占める。

対アジアNIEs輸入額は67,599百万ドルで、対前年比2.2%減、全世界の8.3%を占める。これを商品別にみると、最も多い輸入品は機械機器29,455百万ドルで、全輸入品の43.6%を占める。機械機器の中では、多い順に、電気機器19,428百万ドル（機械機器の66.0%）、一般機械6,351百万ドル（同21.6%）、精密機器2,065百万ドル（同7.0%）、輸送機器1,610百万ドル（同5.5%）となっている。次に多い輸入品は、その他原料・同製品19,223百万ドル（全輸入品の28.4%）、化学品8,994百万ドル（同13.3%）で、これら上位3商品で全輸入額の85.3%を占める。

[2015年]

2015年の日本の総輸入額は648,343百万ドルで、これを地域別・商品別に輸入額の動向をみると、対米輸入額は648,343百万ドルで、対前年比7.1%減、全世界の10.3%を占める。これを商品別にみると、機械機器の輸入が最も多く、28,769百万ドル、全輸入品の43.2%を占める。機械機器の中では、多い順に、一般機械9,446百万ドル（機械機器の32.8%）、精密機器6,931百万ドル（同24.1%）、電気機器6,322百万ドル（22.0%）、輸送機器6,070百万ドル（同21.1%）となっており、対米輸出の多かった輸送機器割合は、輸入では低下し、逆に対米輸出の少なかった精密機器の輸入割合が高くなっている。次に多い輸入品は、食料品12,538百万ドル（全輸入品の18.8%）、化学品11,771百万ドル（同17.7%）となっており、これら上位3商品で全輸入品の80%を占める。

対EU輸入額は71,265百万ドルで、対前年比13.5%減、全世界の11.0%を占める。商品別にみると、最も多い輸入品は機械機器で、27,577百万ドル、全輸入品の38.9%を占める。機械機器の中では、多い順に輸送機器10,032百万ドル（機械機器の36.4%）、一般機械8,174百万ドル（同29.6%）、精密機器5,673百万ドル（同20.6%）、電気機器3,699百万ドル（同13.4%）となっており、輸出に比べ、輸送機器の輸入割合が高い。次に多い輸入品は化学品23,853百万ドル（全輸入品の33.5%）、その他原料・同製品9,908百万ドル（同13.9%）となっている。化学品の輸入割合が高く、特に化学工業品は22,235百万ドル（化学品の93.2%）で、中でも医薬品・医薬用品は13,762百万ドル、化学品の57.7%と半数を占める。これら上位3商

品で、全輸入額の86.1%を占める。

対中輸入額は160,674百万ドルで、対前年比11.8%減、全世界の24.8%を占め、14年連続の最大の輸入相手国である。商品別にみると、最も多い輸入品は機械機器81,479百万ドルで、全輸入額の50.1%を占める。機械機器の中では、多い順に電気機器が最も多く、44,785百万ドル（機械機器の55.0%）で、一般機械27,247百万ドル（同33.4%）、精密機器5,341百万ドル（同6.6%）、輸送機器4,105百万ドル（5.0%）と続く。次に多い輸入品は、その他原料・同製品41,769百万ドルで全輸入品の26.0%を占め、中でも繊維・同製品は22,904百万ドルで、その他原料・同製品の54.8%（全輸入品の14.3%）を占める。次には、化学品13,393百万ドル（全輸入品の8.3%）となり、これら上位3商品で、全輸入額の85.0%を占める。

対ASEAN輸入額は97,953百万ドルで、対前年比15.9%減、全世界の15.1%を占める。商品別にみると、その他原料・同製品が最も多く、42,265百万ドル、全輸入額の43.1%を占める。その他原料・同製品の中では、多い順に、鉱物性燃料が21,261百万ドル（その他原料・同製品が50.3%（全輸入品の21.7%））、繊維・同製品が7,356百万ドル（同17.4%）と続く。次に多い輸入品は機械機器29,876百万ドル（全輸入額の30.5%）、化学品9,807百万ドル（同10.0%）で、これら上位3商品で全輸入額の83.7%を占める。

対アジアNIEs輸入額は59,903百万ドルで、対前年比11.4%減、全世界の9.2%を占める。商品別にみると、機械機器が最も多く、28,345百万ドル、全輸入額の47.3%を占める。中でも電気機器は18,568百万ドルで、機械機器の65.5%と約3分の2を占める。次に多い輸入品は、その他原料・同製品13,801百万ドル（全輸入品の23.0%）、化学品8,309百万ドル（同13.9%）となっており、これら上位3商品で、全輸入額の84.2%を占める。

4 考察

以上、日本の最近5年間における国・地域別に、国際流通の現状と動向をみてきたが、本節において、そこでみられる特徴、注目すべき点について述べることにする。（1）まず、輸出状況をみてみる。2006年から2015年までの10年間でみると、日本の最大輸出国は米国から中国へ、その後再び米国へ、また地域別ではEU（2006年はEU25。以下同じ）からアジアNIEs、さらにASEANへ移ってきている。

国別でみると、2006年における最大輸出国は米国で、145,651百万ドル、日本の全輸出額（647,290百万ドル）の22.5%を占め、中国は92,852百万ドル、同14.3%であった。その後2009年以降には、中国が最大輸出国となり、2012年には対中輸出額は144,686百万ドル、全輸出額（801,335）の18.1%を占めるまでとなった。しかし2012年を境に、対中輸出額、構成比とも減少し、2013年から米国が再び日本の最大輸出国となり、2015年には125,852百万ドル、全輸出額の20.1%を占めている。一方、対中輸出額は、2015年109,226百万ドルで、日本の最大輸出国であった2012年と比べると、輸出額で35,420百万ドル、24.5%減、構成比で0.6ポイント減と、輸出額、構成比とも減少した。中国の輸入額は2011年1,743,484百万ドルから2015年1,681,951百万ドルへと、2015年はやや減少している。日本の対中輸出（中国の日本からの輸入）が減少していることは、近年における中国の貿易動向や経済成長等の影響も反映していると考えられる²⁾（後述するように、この他に日本の対中輸出競争力の低下もまた、その要因としてあげることができる）。

日本は1993年以来、中国にとって最大の輸入先であったが、2011年にはEUにその座を譲り、2013年には第3位、2013年と2014年は第4位、2015年には第6位に後退した。2015年における中国の最大輸入先は引き続きEUで、以下第2位にASEAN、第3位に韓国、第4位に米国、第5位に台湾となっており、日本はASEAN、韓国、

2) 中国の経済成長率は、以前みられたような2桁成長はみられず、近年は1桁台の成長率を示し、2015年には6.9%と1990年以来25年ぶりに7%を割り込み、成長率の鈍化傾向がみられる。貿易総額も2015年には前年比8.0%減の3兆9,569億ドルと前年割れとなり、このような中国の経済状況、貿易動向等が日本の対中輸出の減少に少なからず影響しているものと考えられる。なお、2017年1月21日の報道によれば、2016年の経済成長率は6.7%と前年より0.2ポイント減少し、26年ぶりの低水準となった。財務省の平成28年度上半期貿易統計（速報）によれば、対中輸出は前年比9.0%減の5兆8907億円にとどまり、対中輸出の減少傾向が続いている。

台湾の後塵を拝し、この5年間でのアジア地域での対中輸出での凋落ぶりが著しい。この現象は、日本商品に対する需要そのものが減少しているのか、それとも中国国内市場で他国・他地域からの輸入商品との競合で競争力を失っているのか、あるいはそれらが混合したものであるのか、いくつかの要因が指摘できるが、日本商品の中国市場での他国・他地域商品との競合による相対的競争力の低下（逆にいえば、他国・他地域商品の相対的競争力の向上）とみるのが、一般的に考えられることであろう。

地域別でみると、2006年におけるアジア NIEs 向け輸出額は150,301百万ドルで、全輸出額の23.2%で第1位を占める。同年におけるEU向けが93,869百万ドル、ASEAN 向けが76,349百万ドルであることから、アジア NIEs 向けは EU 向けの1.6倍、ASEAN 向けの2倍となっている。2015年ではアジア NIEs 向けが135,894百万ドルで、構成比21.7%となっており、同年の EU 向けが66,004百万ドル、ASEAN 向けが95,052百万ドルであったことから、依然としてアジア NIEs 向けが日本の最大輸出先となっている。一方、地域間でみると、2006年では EU 向け輸出が第2位を占めていたが、最近では ASEAN 向け輸出が増加し、2015年では ASEAN 向け輸出額が EU 向け輸出額の1.4倍となり、ASEAN 向け輸出が第2位を占めている。

IMF によれば、この5年間ににおける ASEAN の経済成長率は4%～6%台で推移し、その成長率を背景に、2006年の76,349百万ドルから2015年には95,052百万ドルへと増加し、全世界における輸出構成比は11.7%から15.2%へと3.5ポイント上昇している。2015年12月には ASEAN 共同体が設立され³⁾、ASEAN 域内の連結性と関税撤廃による貿易の活発化、それに伴う経済成長の拡大が見込まれることから、今後とも日本にとって有望な輸出市場となることが予想される。

(2) 次に、輸入状況をみる。2006年から2015年の10年間でみると、日本の最大輸入国は中国で、全世界における同国の輸入構成比は2006年20.5%から2015年24.8%へと4.3ポイント上昇し、また地域別にみるとアジ

ア NIEs からの輸入割合が減少し、ASEAN と EU からの輸入割合が増加している。

2006年の中国からの輸入額は118,516百万ドルで、2015年には160,674百万ドルと増加し、14年連続で最大の輸入相手国となっている。中国からの輸入は機械機器の輸入が多く、なかでも輸入額でみると電気機器の輸入が多くみられる。また繊維・同製品（衣類等）の輸入も多くみられるが、この5年間で全世界の輸入構成比は2011年74.7%から2015年71.3%と3.1ポイント減少し、他方で ASEAN からの同商品の輸入構成比は2011年11.7%から2015年15.2%へと3.5ポイント上昇し、ASEAN からの輸入割合が増加しつつある。これは、同商品の ASEAN への生産移管が進展していることによるものと考えられる。

米国からの輸入額は、2006年は68,071百万ドル（全世界の輸入構成比11.8%）であったが、2015年66,638百万ドル（同10.3%）と、この10年間でみると、構成比は1.5ポイント減少した。米国からの輸入は機械機器の輸入が最も多く、また食料品の輸入も多いのが特徴であるが、輸入額（2011年17,097百万ドル→2015年12,538百万ドル）、構成比（2011年23.0%→2015年18.8%）とも減少している。

地域別にみると、ASEAN からの輸入額は2006年79,990百万ドルから2015年97,953百万ドルへと、全世界の輸入構成比は13.8%から15.1%へと1.3ポイント上昇し、ASEAN からの輸入が増加している。前述したように、日本の ASEAN 向けの輸出が増加していることから、輸出と輸入の両面で、日本と ASEAN の貿易関係は強まっており、さらに今後の ASEAN の経済成長を見込むと、日本と ASEAN の経済関係、貿易取引はさらに進展していくものと考えられる。

アジア NIEs からの輸入は2006年56,695百万ドル、構成比10.2%であったが、2015年には59,903百万ドル、同9.2%で、構成比は1ポイント減少している。アジア NIEs からの輸入は電気機器の輸入が多くみられる（2011年全輸入額の26.3%→2015年同30.1%と3.8ポイント上昇）。一方で、その他原料・同製品の輸入は減少し（2011年全輸

3) ASEAN 共同体 (AEC) は2015年12月31日に発足したが、そこでの取組みの1つが、域内における「ASEAN 連結性」の強化である。これは、物流や人の流れの円滑化を促進することで、域内の経済的一体性を高めようとするイニシアティブのことである。今1つの取組みは域内の関税撤廃である。ASEAN 先発国は域内ではほとんどの品目につき関税撤廃が行われているが、ASEAN 後発国での関税撤廃率は約90%程度となっている。しかし、これについても2018年までには実質的な関税ゼロを目指す方針である。

入額の32.5%から2015年同23.0%へと9.5ポイント減)、その大きな要因は鉱物性燃料と繊維・同製品の輸入減少によるものである。

EU からの輸入は、2006年59,830百万ドルから2015年71,265百万ドルと増加し、全世界の輸入構成比も10.3%から11.0%へと0.7ポイント上昇している。全世界からみた EU からの輸入でみられる大きな特徴は、化学工業品、なかでも医薬品・医薬用品の輸入割合が高いことである。全世界における日本の医薬品・医薬用品の輸入額は2011年19,992百万ドルで、うち EU からの輸入は11,187百万ドル、構成比56.5%、2015年では日本の医薬品・医薬用品の輸入額23,147百万ドルのうち、EU からの輸入額は13,762百万ドル、同構成比59.5%となっており、この5年間で EU からの輸入額、構成比とも増加させている。特に全世界の輸入額のうち、EU からの輸入割合が半数を超えているというのは注目すべきであり、日本には製薬業界や医薬用品業界に有力な企業が存在し、海外での生産・販売も強化して行われているが、これにも増して、この分野における EU の輸出競争力が極めて強固であることがわかる。

5 結び

本研究ノートは、日本の国際商品流通の実態として、国・地域別国際流通の現状と動向を分析した。輸出流通では、近年における最大の輸出相手国は米国となっており、かつての最大輸出国であった中国への商品輸出が減少傾向にあること、地域別では ASEAN への輸出流通が増加してきていることを明らかにした。また、輸入流通では、中国からの輸入が最も多く、この10年間で全世界における同国の輸入構成比は2006年20.5%から2015年24.8%へと、4.3ポイント上昇している。また地域別では、近年、ASEAN からの輸入割合が増加してきていることを述べた。

日本の対中国国際流通は輸出商品が減少する一方で、輸

入商品が増加し貿易収支は大幅な赤字傾向が強まっている。このことは、日本に対する中国の相対的競争力が強まってきていることの表れの1つであろう。また、ASEAN とは、輸出商品、輸入商品の両面で増加傾向にあることは、日本と同地域の経済的結びつきが高まっていることによるものであり、今後の ASEAN の経済成長を見込むと、同地域との経済関係は深まり、同地域との国際商品流通はさらに進展していくものとみられる。

執筆分担

2 国別・地域別輸出流通の現状と動向

3 国別・地域別輸入流通の現状と動向

鷺尾和紀

1 国際流通をみる3つの視点

4 考案

5 結び

鷺尾紀吉

参考文献

青木 均 (2009)「流通国際化の概念 ― 分析次元の設定」『流通研究』(愛知学院大学流通科学研究所)、第15号、pp. 1-9。

経済産業省編 (2016)『通商白書』勝美印刷。

財務省「貿易統計」

日本貿易振興機構編『ジェトロ世界貿易投資報告』日本貿易振興機構、各年版。

日本貿易振興機構海外調査部海外調査課編 (2016)「2015 主要国の自動車生産、販売動向」日本貿易振興機構。

日本貿易振興機構海外調査部中国北アジア課編 (2016)「2015の日中貿易」日本貿易振興機構。

日本貿易振興機構デュッセルドルフ事務所／海外調査部欧州ロシア CIS 課編 (2016)「ドイツの医療機器ビジネスの現状」日本貿易振興機構。

鷺尾紀吉 (2014)『現代国際流通論―原理と仕組み』創成社。

表1 国・地域別商品輸出動向

[米国]		商品輸出額		上位5商品		(単位：100万ドル)			
2011年		2012年		2013年		2014年		2015年	
機械機器	97,692	機械機器	111,075	機械機器	104,800	機械機器	101,077	機械機器	98,100
化学品	11,359	化学品	11,232	化学品	10,870	化学品	10,753	化学品	10,681
その他原料・同製品	8,814	その他原料・同製品	9,800	その他原料・同製品	8,617	その他原料・同製品	8,748	その他原料・同製品	8,064
雑製品	1,646	雑製品	1,514	雑製品	1,459	雑製品	1,403	雑製品	1,268
食料品	687	食料品	699	食料品	672	食料品	717	食料品	730
合計	125,673	合計	140,624	合計	133,199	合計	129,441	合計	125,852

備考 上位5商品を選び出しているため、合計値は一致しない。

[EU28]		商品輸出額		上位5商品		(単位：100万ドル)			
2011年		2012年		2013年		2014年		2015年	
機械機器	68,474	機械機器	57,781	機械機器	50,609	機械機器	51,385	機械機器	47,355
化学品	11,681	化学品	10,296	化学品	9,261	化学品	9,114	化学品	8,103
その他原料・同製品	9,007	その他原料・同製品	6,857	その他原料・同製品	5,524	その他原料・同製品	4,858	その他原料・同製品	4,843
雑製品	1,479	雑製品	1,184	雑製品	1,234	雑製品	1,111	雑製品	858
食料品	294	食料品	185	食料品	196	食料品	211	食料品	238
合計	95,411	合計	81,742	合計	72,173	合計	72,082	合計	66,004

備考 (1) 上位5商品を選び出しているため、合計値は一致しない。

(2) 2011年と2012年はEU27である。

[中国]		商品輸出額		上位5商品		(単位：100万ドル)			
2011年		2012年		2013年		2014年		2015年	
機械機器	100,076	機械機器	86,690	機械機器	74,974	機械機器	74,988	機械機器	52,831
その他原料・同製品	29,220	その他原料・同製品	26,258	化学品	23,912	化学品	22,211	化学品	18,832
化学品	24,375	化学品	22,939	その他原料・同製品	23,063	その他原料・同製品	21,714	その他原料・同製品	17,984
雑製品	1,307	雑製品	1,263	雑製品	1,123	雑製品	1,269	雑製品	1,764
食料品	335	食料品	398	食料品	410	食料品	443	食料品	554
合計	161,467	合計	144,686	合計	129,851	合計	127,105	合計	109,266

備考 上位5商品を選び出しているため、合計値は一致しない。

[ASEAN]		商品輸出額 上位 5 商品				(単位：100 万ドル)			
2011 年		2012 年		2013 年		2014 年		2015 年	
機械機器	70,145	機械機器	77,829	機械機器	62,504	機械機器	58,210	機械機器	52,831
その他原料・同製品	32,237	その他原料・同製品	30,800	その他原料・同製品	28,960	その他原料・同製品	27,044	その他原料・同製品	23,532
化学品	13,506	化学品	13,044	化学品	12,008	化学品	11,990	化学品	10,620
雑製品	799	雑製品	993	食料品	852	食料品	818	食料品	824
食料品	774	食料品	838	雑製品	824	雑製品	767	雑製品	736
合計	122,733	合計	129,788	合計	111,671	合計	105,241	合計	95,052

備考 上位 5 商品を選び出しているため、合計値は一致しない。

[アジア NIEs]		商品輸出額 上位 5 商品				(単位：100 万ドル)			
2011 年		2012 年		2013 年		2014 年		2015 年	
機械機器	88,625	機械機器	81,233	機械機器	71,251	機械機器	69,207	機械機器	65,529
その他原料・同製品	46,423	その他原料・同製品	41,245	その他原料・同製品	38,202	その他原料・同製品	36,646	その他原料・同製品	29,039
化学品	36,678	化学品	34,024	化学品	30,812	化学品	28,687	化学品	24,333
食料品	2,383	食料品	2,189	食料品	2,172	食料品	2,161	食料品	2,397
雑製品	1,384	雑製品	1,496	雑製品	1,419	雑製品	1,392	雑製品	1,406
合計	186,546	合計	172,444	合計	157,450	合計	151,505	合計	135,894

備考 (1) 上位 5 商品を選び出しているため、合計値は一致しない。

(2) アジア NIEs は、韓国、香港、シンガポール、台湾。シンガポールは ASEAN とアジア NIEs 双方に含まれる。

表 2 国・地域別商品輸入動向

[米国]		商品輸入額 上位 5 商品				(単位：100 万ドル)			
2011 年		2012 年		2013 年		2014 年		2015 年	
機械機器	28,013	機械機器	30,980	機械機器	29,078	機械機器	29,577	機械機器	28,769
食料品	17,097	食料品	16,044	食料品	13,492	食料品	14,436	食料品	12,538
化学品	14,097	化学品	13,964	化学品	12,298	化学品	12,445	化学品	11,771
その他原料・同製品	10,709	その他原料・同製品	10,711	その他原料・同製品	10,983	その他原料・同製品	11,024	その他原料・同製品	9,781
油脂等動物性生產品	2,011	油脂等動物性生產品	2,070	油脂等動物性生產品	1,987	油脂等動物性生產品	1,920	油脂等動物性生產品	1,884
合計	74,231	合計	76,460	合計	70,322	合計	71,751	合計	66,638

備考 上位 5 商品を選び出しているため、合計値は一致しない。

[EU28]		商品輸入額 上位 5 商品				(単位：100 万ドル)			
2011 年		2012 年		2013 年		2014 年		2015 年	
機械機器	28,916	機械機器	31,249	機械機器	30,487	機械機器	31,875	機械機器	27,577
化学品	26,419	化学品	26,453	化学品	23,588	化学品	21,561	化学品	23,853
その他原料・同製品	12,401	その他原料・同製品	12,352	その他原料・同製品	11,943	その他原料・同製品	12,070	その他原料・同製品	9,908
食料品	9,915	食料品	9,866	食料品	9,035	食料品	8,637	食料品	6,918
雑製品	1,784	雑製品	1,941	雑製品	2,058	雑製品	2,107	雑製品	1,869
合計	80,287	合計	83,520	合計	78,995	合計	77,749	合計	71,265

備考 (1) 上位 5 商品を選び出しているため、合計値は一致しない。

(2) 2011 年と 2012 年は EU27 である。

[中国] 商品輸入額 上位 5 商品 (単位：100 万ドル)									
2011 年		2012 年		2013 年		2014 年		2015 年	
機械機器	83,980	機械機器	90,206	機械機器	89,870	機械機器	92,533	機械機器	81,479
その他原料・同製品	54,967	その他原料・同製品	53,491	その他原料・同製品	49,988	その他原料・同製品	47,608	その他原料・同製品	41,769
化学品	17,667	雑製品	17,130	雑製品	15,979	雑製品	15,494	雑製品	13,603
雑製品	15,589	化学品	15,001	化学品	13,810	化学品	14,360	化学品	13,393
食料品	9,568	食料品	10,283	食料品	9,203	食料品	9,034	食料品	8,204
合計	183,487	合計	189,019	合計	182,192	合計	182,071	合計	160,674

備考 上位 5 商品を選び出しているため、合計値は一致しない。

[ASEAN] 商品輸入額 上位 5 商品 (単位：100 万ドル)									
2011 年		2012 年		2013 年		2014 年		2015 年	
その他原料・同製品	62,613	その他原料・同製品	66,727	その他原料・同製品	60,074	その他原料・同製品	57,020	その他原料・同製品	42,265
機械機器	30,694	機械機器	31,299	機械機器	29,812	機械機器	31,136	機械機器	29,876
化学品	13,006	化学品	12,407	化学品	11,219	化学品	10,943	化学品	9,807
食料品	9,981	食料品	10,148	食料品	9,191	食料品	9,009	食料品	8,514
雑製品	2,946	雑製品	3,458	雑製品	3,596	雑製品	3,911	雑製品	3,974
合計	124,607	合計	129,603	合計	118,644	合計	116,499	合計	97,953

備考 上位 5 商品を選び出しているため、合計値は一致しない。

[アジア NIEs] 商品輸入額 上位 5 商品 (単位：100 万ドル)									
2011 年		2012 年		2013 年		2014 年		2015 年	
機械機器	29,489	機械機器	30,392	機械機器	28,984	機械機器	29,455	機械機器	28,345
その他原料・同製品	23,747	その他原料・同製品	23,785	その他原料・同製品	20,997	その他原料・同製品	19,223	その他原料・同製品	13,801
化学品	9,815	化学品	10,094	化学品	9,166	化学品	8,994	化学品	8,309
食料品	3,993	食料品	4,114	食料品	3,690	食料品	3,505	食料品	3,159
雑製品	916	雑製品	1,078	雑製品	1,061	雑製品	990	雑製品	912
合計	73,057	合計	75,124	合計	69,147	合計	67,599	合計	59,903

備考 (1) 上位 5 商品を選び出しているため、合計値は一致しない。

(2) アジア NIEs は、韓国、香港、シンガポール、台湾。シンガポールは ASEAN とアジア NIEs 双方に含まれる。